

Report >> 143 建築家

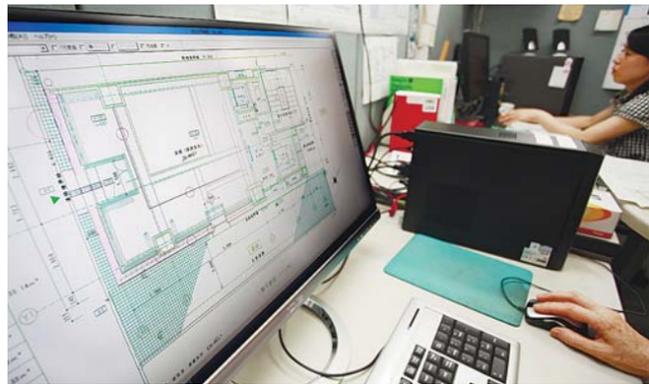
ID・アーキテクト 伊藤善彦さん(61)、ふみ子さん(64)

法律や構造 家造りの知識持つ

家を建てる時、そこで暮らす人に代わって家の計画を立て、家造りをすすめるのが建築家の仕事です。ID・アーキテクト(東京都墨田区)の伊藤善彦さん、ふみ子さん夫妻は、ビルやマンション、個人住宅の新築から改修まで、さまざまな家造りの仕事をしています。(今井尚)



これまでの作品写真の前に並ぶ伊藤善彦さん(右)とふみ子さん。東京都墨田区のID・アーキテクトで



CADと呼ばれる専用ソフトで家の設計図を描きます



25年前(左奥)、20年前(右奥)、そして今年(手前)と3代にわたり建築を請け負うことになったお客さんの家の模型を見る善彦さん。作品を気に入って使ってもらえることがうれしい

「設計」と「監理」 家は造りません

たとえ自分の土地に自分で家を建てたいと思っても、普通、家は勝手に建てられません。なぜでしょう。もし隣に家が当たらないと崩れたり、地震のときに崩れたり、火事になりやすい家が増えてしまったりするからです。そこで、建築士の国家資格を持った人が構造や法律に照らし、責任を持って設計することになっています。

建築士のなかでも、建築事務所を置いて自ら設計を請け負う人のことを一般的に「建築家」といいます。建築士は大きく二つの仕事があります。設計と監理です。設計は「依頼主であるお客様の夢を形に変えること」。部屋の広さはどれくらいにしたらいいか、キッチンの向きは……など、建築士は依頼主と話し合いを重ね、設計士としての提案も加えて構造を考えます。「話し合いはすればするほどいい家が出来ます。決定までには平均10回ほどは話し合います」とふみ子さん。

CADと呼ばれるコンピュータソフトを使って図面を描き、模型も使って具体的な形にしていきます。計画が固まると、いよいよ工事が始まります。しかし、「建築家」は通常、家を自分で造りません。工事は大工など施工業者に発注します。

自社で造らない理由は、建築士のも一つの役割である「監理」を正しく行うためです。建築士は現場に通い、コンクリートは正しく打たれているかなどを確認し、間違いがあれば指摘します。戸建て住宅の場合、工事の期間はおよそ4〜5カ月ほど。伊藤さんたちはその間、毎週現場に通い続けます。家は一生で最も大きな買い物で、返品することも難しいです。「建築士はお客様に代わって工事を見守る弁護士のような存在」と善彦さんはいいます。

伊藤善彦さんのおゆみ>>

- 中学時代 英語を学ぶESSクラブに熱中していた
- 高校時代 クラブの部室を自分たちで造る。「空間が生まれる」ことに興味
- 1970年 東京大学入学
- 74年 東京大学工学部建築学科卒業
- 74年 三菱地所一級建築士事務所勤務
- 90年 伊藤善彦建築研究所を設立
- 2001年 ID・アーキテクトに改称

「自分の作品をつくりたいと思うようになりました」

先輩からのメッセージ

幅広い能力と関心が必要

幅広い能力が求められる仕事です。第一に設計には数学、物理、化学の知識が必要です。さらにお客さんに説明するコミュニケーション能力、建築の歴史や文化などへの関心、法律への興味、絵を描く力とデザイン能力も大切です。体力や、さらに事務所を開くには会計や経営能力も必要です。得意でなくてもいいので、少なくとも関心を持つことが必要。協力して作業することも大切で、夫婦で建築事務所を営む人も多々います。

大学へ進学した1970年は大阪で日本万国博覧会が開かれた年。日本中に大きな新しい建物が次々と造ります。最初の相談から家が完成するまで、およそ1年弱。「ほとんどのお客さんがとても喜んでくれます。お客さんの喜ぶようすを見ると、一番やりがいを感じ瞬間です」とふみ子さん。

千葉市で生まれ育った善彦さんは、高校時代に校内の古い建物の中に自分たちがクラブの部室を造ることになりました。「何もないところに新しい空間が生まれることが驚きでした。あの体験が建築への興味の最初かもしれない」と話します。

卒業後は大手設計会社に就職し、16年後に独立。今は「大きなビルを大勢のチームで造り上げるより、小さな1軒の木造住宅であってもお客さんとの出会いを楽しみながら、建築家として作品を造り上げることにやりがいと魅力を感じます」と話しています。

作品に社会へのメッセージ込め

なかでも建物は「そこに人が暮らすだけでなく、作品を通して社会へメッセージを投げかけることができる」と感じました。

建築家になるには>>

建築士の資格が必ず必要。高いビルやマンションなどを建てられる1級建築士のほかに、主に木造の戸建て住宅を扱う2級建築士などもある。伊藤さん夫妻は1級建築士。1級建築士になるには、一般的に大学の建築学科で勉強する。卒業後、設計事務所などで2年以上建築の仕事をして初めて試験を受けることができる。試験は建築の知識や歴史などを問う「学科」と、実際に設計図をつくる「設計製図」がある。ここ10年間の合格率は10%ほど。
1級建築士の年収は579万6200円(49.7歳、勤続13.6年)厚生労働省の「2012年 賃金構造基本統計調査」から推計